

■ 英語コースにおいて教職課程を開設いたしました

英語コースの 2017 年度以降生を対象に、教職課程を開設いたします。小学校教諭一種、中学校教諭一種(英語)、高等学校教諭一種(英語)、学校図書館司書教諭が取得可能となります。

※中国語コース、日本語コースに教職課程はございません。また、英語コースの 2016 年度以前生も教職課程を履修することはできません。

■ 今後求められる英語科教員像とは

グローバル化の流れを受け、日本の英語科教員養成は大きな変革を迫られています。2013 年高等学校の指導要領において「授業は英語で行うことを基本とする」と示されて以来、英語科教員に求められる資質も大きく変わってきました。その後、東京オリンピック控え、グローバル化に対応した英語科教員養成の流れは、益々加速しています。こうしたなか、中学校の次期指導要領でも「授業では英語で行うことを基本とする」という要素が盛り込まれることはほぼ確実な状況にあります。さらに今後、生徒の学びをより深いものにするべく、対話の要素をより多く取り入れたアクティブ・ラーニングの視点を重視した授業設計も求められるでしょう。今後も、「教え込み」の重要性は変わらないでしょうが、生徒の深い学び、多面的な英語力の獲得という視点から、英語授業の形態が大きく変わる可能性が高く、そのような流れに対応できる英語科教員が求められています。加えて、今後、小中高における英語教育の体系化が加速していくことが予測されます。どの段階で教えるにせよ、その体系性を理解し、マクロとミクロの視点を持ちつつ、生徒の成長のための教育の一翼を担うことも求められるでしょう。

しかし一方で、実際の教育現場を鑑みたとき、依然として、英語嫌いの生徒も決して少なくありません。英語科教員には、生徒の英語学習を阻害しているつまずきの原因を把握し、適切な支援をすることも求められています。英語で授業をすることは、生徒の英語力をつけるための「手段」であって「目的」ではありません。英語力は多面的であり、様々な背景や問題を持つ生徒の全体的な英語力をつけることが英語科教員には求められます。そのような英語力の育成は長期的な視点で考えなければなりません。その方向に向かって努力していきたいと生徒に思わせ、生徒の主体的な学びにおける効果的な支援のできる、そのような資質を備えた英語科教員が求められています。英語を教えるということは、単に文法や語彙を教えることではありません。いかにして生徒たちに「英語によるコミュニケーションとは、相手のことを思いつつ意思疎通を図ることである」と認識できるような体験を提供できるかが問われているのです。生徒たちに英語によるコミュニケーションの意味を理解させ、実際にいろんな場面で使える英語力を身につけるべく努力していけるよう導くことのできる——そのような資質を持った人材(英語科教員)が、今、社会から求められています。

■ グローバル・コミュニケーション学部教職課程の理念

今日求められている英語科教員像とは、急速に変化する世界にあって、生徒たちが日本を超えた世界に対する関心を高め、世界とをつながる「言葉」を獲得できるよう、指導する能力を有した教員です。そのためには、まず教員自身が、高度な実践的外国語運用能力とともに異文化理解力、幅広い教養、及び、論理的な思考力・表現力を兼ね備えていなくてはなりません。

本学部英語コースでは、教員を志望する学生たちがこれらすべての能力を身につけることができるカリキュラムが構築されています。特に全員の学生が一年間の SA の経験を有することは、英語科教員養成にあたっての、本学部の大きな強みです。こうした経験を通して、学生たちは英語の母語話者に混じって対等に議論を交わし、自らの意見を述べる能力を身につけます。また、SA では英語運用能力の伸長のみならず、世界中の人々との

交流を通じて、視野を広げ、異文化への理解を深めると同時に、さまざまな困難を乗り越える必要性から、問題解決能力や交渉力も大きく発達します。こうした資質はいずれも、教員となった時に大きな力となります。また、4年間の学びの集大成である「Seminar Project」では、社会と実際に関わり、メンバーと協力してプロジェクトを遂行する過程で、英語科教員に求められる卓越したコミュニケーション能力ばかりではなく、教員に必要な責任感や協調性といった資質も涵養されます。

新しい時代の英語科教員に求められるのは、単に文法や語彙をうまく教えられる能力だけではなく、世界に向けて生徒たちの心を開き、関心を高め、英語で伝えたいと思う気持ちを育てる、真の意味でのコミュニケーション能力です。本学部のカリキュラムを通して涵養される多面性と双方向性を持つコミュニケーション能力は、英語指導ばかりではなく、生徒のつまづきへの対応や問題を抱えた生徒に対する指導にも役立ちます。本学部英語コースでは 21 世紀の教育を担うのに相応しい教員を育成します。